

まえがき

本書は、アジア経済研究所が 2010 年度から 2 年間の予定で実施している「東南アジア移行経済の経済政策と経済構造：ミャンマーとベトナムの比較研究」研究会の中間報告書である。本書に収録している論考は、2011 年度に改訂を加えた後、成果を取りまとめて当研究所の研究双書として公刊される予定である。本書についてのコメントは、論考の改訂に活かすべく、編者もしくは各章の筆者にお送りいただけると幸いである。

本書を手にとって頂いた読者のみなさまには、高い経済成長を続け中所得国になりつつあるベトナムと、長く経済の低迷を続けるミャンマーとを比較することを奇異に感じられる方がいるかもしれない。しかし、1980 年代末のベトナムは計画経済体制の行き詰まりで混迷を極めていて、諸々の経済指標でみても、ミャンマーとの間にそれほど大きな乖離は見られなかった。両国は 1990 年代初頭から国際経済への統合を始めるが、この時点では多くの共通点が見出せる。そして、本書が分析の対象とする 1990 年代初頭から 20 年あまりの間に、両国の経済成長の経路が著しく分岐していく。初期条件が似ていながら、その後のパフォーマンスが著しく異なるミャンマーとベトナムの経済を比較分析することは、興味深いテーマであると本研究会では考える。

本書では、両国の経済パフォーマンスと「制度」との関係に注目する。経済成長における「制度」の重要性については、近年、研究の蓄積が目覚ましい。「制度」が良い国では経済成長が促され、「制度」が悪い国では経済成長が阻害されるという見方は、コンセンサスになりつつある。しかし、具体的に「制度」とは何なのか、「制度」がどのように経済パフォーマンスに影響するのかについて、個別の途上国の文脈で明確に議論している研究は少なく、この点についてストレスを感じておられる読者も多いのではないかと察する。斯く言う筆者もその一人である。

本書は、ミャンマーとベトナムについて、「制度」とそれ以外の要因がどのように合わさって経済パフォーマンスを規定しているのか、そもそもなぜ「制度」の進化の道筋が二つの国で異なってきたのかといった問題の解明に取り組んでいる。この取り組みがどこまで成功しているのかの判断は、読者のみなさまに委ねたい。

最後に、本研究会にオブザーバーとして参加し、有益なコメントをくれた当研究所の同僚、坂田正三氏、石塚二葉氏、グエンホン氏には、記して感謝する。

2011 年 3 月 15 日

久保 公二

目次

序章	制度発展の道筋：統制経済の困難と「解決」策	...	1
	久保公二 渡辺愼一 藤田麻衣		
第1章	通貨・金融システムと制度	...	27
	久保公二 渡辺愼一		
第2章	コメ政策：価格政策と公共投資	...	45
	久保公二 塚田和也		
第3章	輸出構造の変化と経済制度	...	75
	久保公二 藤田麻衣		
第4章	縫製産業におけるパフォーマンス格差とその要因	...	103
	後藤健太 工藤年博		

執筆者紹介 (50 音順)

- 工藤年博 アジア経済研究所 地域研究センター東南アジアⅡ研究グループ長
(第4章 共著者)
- 久保公二 アジア経済研究所 開発研究センター研究員
研究会主査 (序章、第1章、第2章、第3章 共著者)
- 後藤健太 関西大学 経済学部 准教授
(第4章 共著者)
- 塚田和也 アジア経済研究所 開発研究センター研究員
(第2章 共著者)
- 藤田麻衣 アジア経済研究所 地域研究センター東南アジアⅡ研究グループ長代理
研究会幹事 (序章、第3章 共著者)
- 渡辺慎一 国際大学大学院 国際関係学研究科 教授
(序章、第1章 共著者)

調査研究報告書
開発研究センター2010－IV－24
「東南アジア移行経済の経済政策と経済構造：
ミャンマーとベトナムの比較研究」研究会

2011 年 3 月 31 日発行

発行所 独立行政法人日本貿易振興機構

アジア経済研究所

〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉 3-2-2

電話 043-299-9500

無断複写・複製・転載などを禁じます。
